

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)



・・・目次・・・

・特集：不妊に悩む人の心を聴く 心地よい関係のために.....	1
・実践不妊看護セミナー参加者の声.....	2
・「特定不妊治療費助成事業の効果的・効率的な運用に関する検討会」報告.....	3
・勉強会のお知らせ.....	5
・理事会報告.....	6
・第5回学術集会のお知らせ.....	6
・英国Royal College of NursingのFertility Nurses Forum Conferenceのお誘い.....	6
・掲示板.....	7
・もしも不妊看護の現場で行き詰まったら.....	8
・事務局からのお知らせ・編集後記.....	8

特集：不妊に悩む人の心を聴く



今回の特集は、10月9日に行われました「第3回実践不妊看護セミナー」のテーマでもあります「不妊に悩む人の心を聴く」です。不妊に悩み相談に来た人、治療中の様々な局面で悩んでいる人に、あなたはどのように関わっていますか。かける言葉、対応に自信をなくすこともあるかもしれません。でも、大丈夫。自信を持って一步を踏み出してみませんか？ そんな勇気がもらえる渡邊廣子先生（H&S RESEARCH）の講演について、日本看護協会神戸研修センター：柴田文子さんからご紹介させていただきます。

心地よい関係のために：傾聴の理解とエクササイズ

最初に、人の心を聴くための心構えとして、本質的価値を尊重できることが重要であると言われました。そして、聴いている自分自身の思考や感情、行動に気づくことが相手の本質的価値を理解する上で大切なことであると話されました。

その後には話された一つの物語を紹介します。「若い女性が恋人と引き離されるような出来事がありました。島にその恋人がいることがわかりました。そこで、その女性は水夫に島に連れて行ってほしいよう頼みましたが、その水夫は自分と関係を持つなら連れて行ってあげ

ようと言いました。女性は、恋人に会うためにどうしたら良いか老人に尋ねました。すると、老人はその女性の思うようにしたらいいと答えました。他に方法がないと思った女性は、仕方なく水夫と関係を持ち島に行くことができました。そこで、恋人に再会できましたが、水夫との関係を知った恋人は激怒して「.....」というような内容でした。渡邊先生は、登場人物4人の中で一番好感を持った人物は誰かと尋ねられました。その際の注意点として、話をしている人の全体を聴くように言われました。それぞれの参加者の意見を聞くと、人それぞれ

れの理由で好感度を持った人物をあげました。その中で一番好きになれない人から消して行き、残った人をあげたという方もいらっしゃいました。その時先生は、好感度を持った人を選ぶことと、消去法で最後に残った人を選ぶことは異なると言われました。人は、聞いたことと理解したことは違います。従って、それぞれが選ぶ時は自分の尺度で人や物事を見るので、自分の傾向を知ることが大切であると言われました。

また、意見を統一する際に互いが歩み寄るためには、共通認識をもつことが必要です。話し合いに十分参加したのであれば、後に不平不満が出ない。たとえ、その時に発言されないことがあったとしても、それは言わなかった人がその理由を知っているので問題はないということでした。



上記の図を説明されながら、人と人とのコミュニケーションは、互いが受け止めた心理的事実が行動に結びつくことを説明していただきました。

そして、相手の気持ちを聴くためには、聞き手が話し手の反響板の役割を果たすことが求められます。援助者である「私」が答えを出すのではなく、話し手自らが解決への糸口を見出すことが大切です。



思いはもともと言葉にしにくい側面があります。そして、聞き手は自分が理解したことが現実と思いがちですが、現実と思い込みの違いを十分認識しておくことが重要です。

最後に、参加された方からいくつか質問がありました。その中で電話相談をしている方が、相談者とコミュニケーションを取る時、相手の表情や態度が見えない不安と対処法について質問されました。それに対して渡邊先生は、声の抑揚、息遣いに注意を向け、時に伝わり方の確認が必要であると答えられていました。

質問の受け答えの中で、援助関係のコミュニケーションのパフォーマンスもを見せていただき、分かることと実践できることの違いも実感した貴重な時間になりました。



第3回実践不妊看護セミナー参加者の声

傾聴する姿勢



J A 高知病院

不妊看護認定看護師 関 正 節

日々不妊看護を実践していく中で、患者の身体的な側面だけでなく、内面的な悩みや苦しみ、不安の存在に気付くことは看護者の役割であると捉え、カウンセリングマインドを持って接するように心がけている。また、その気付きに敏感であることが大切であり、最初のかかわりが援助のきっかけであると考えている。今回、積極的傾聴法を学び、看護者は、患者の表情、動作、話す口調や態度すべてを、見落とさず、聞き漏らさずに「聴く」姿勢を保つことが重要であることを改めて振り返ること

ができた。

看護者が患者のありのままの言葉や反応を聴き、受け止め、返していく会話の中で、患者本人も気づいてなかった「自分の心」を発見したり自らの心が見えてきて、少しずつ変化が生まれてくるのではないだろうか。その作業をできるだけスムーズに行えるように、看護者は患者の本質的な価値を尊重し、すべての「思い」を受け止める覚悟が必要である。時に何らかの患者の変化に気付き声をかけても、今は介入を必要としないと思われる反応

がかえってくることもある。反対に、初対面でも関係性がすんなりと保たれ共感できていくことがある。どちらにしても、その時々、患者のありのままを受け入れていくように柔軟性が必要である。

しかし、日々の看護実践の場で、いつの間にか自分の単抱枠で対象者を捉え、会話しているのではないかと感じる場面に遭遇する。「何か不安なことがありますか」と声かけをすると、患者は、困惑したような表情を浮かべる時がある。患者の表情に看護者自身の思い込みが先行し、不安なことがあることを想定したような言葉かけを最初に言語化してしまっているのではないだろうか。そして、患者自身は心の中に感じている感情を勝手に「不安感」に置き換えられてしまい、自分の思いを見つける過程を妨げてしまっているのではないか。人を理解するというという時、自分の感覚、思い、考えを通し、自分

がどのようなものさしをはかる人間なのか、今何を感じているかを知ることも重要であると認識した。

認定看護師教育課程を経てから、実践の場で患者と接し、常に戸惑いながらであったが、ありのままの患者を受け止め、寄り添うことに心がけてきた。また、患者の心の中に触れたとき、それまでの印象とは違った感情や背景が見えて来たことに「傾聴する」役割を看護者として感じてきた。しかし、「聴く」ことは自然とできるものでなく、対象を理解し積極的に患者の心に自分の心を傾けなければ、知らず知らずのうちに「聴く」ことに忠実でなくなってしまうことに気付かされた。

今回のような研修に参加し、ロールプレイを経験することなどで内生する自己に気付くことができた。今後も、振り返ることを継続して行っていく必要性を感じた。

「特定不妊治療費助成事業の効果的・効率的な運用に関する検討会」報告

聖路加看護大学 森 明子

厚生労働省は、この秋、新しい検討会を発足させました。その趣旨は、平成16年度より開始した特定不妊治療費助成事業について、平成19年度から一層の拡充を図るとし、これまでに明らかになった課題を検討するというものです。その課題とは、「実施医療機関間の設備・人員並びに実績等には相当の差があること」、「効果的・効率的な運用のため、全国的な実績・成果の詳細な把握が必要となっていること」、「不妊治療の成果・予後等については必ずしも明らかではないこと」などとされ、検討会では以下の内容について話し合っていくことになっています。

- 1) 全国的な実績・成果の把握について：治療内容や治療費総額、治療の結果等に関して、情報収集のための体制を整備するための、情報の収集・管理方法やその体制及び調査項目について検討を行う。
- 2) 実施医療機関間の設備・人員等の指定要件について：具備すべき施設・設備要件、必要な人員要件、実施責任者の要件、実施医師の要件、実施医療機関の指定方法などについて、厚生労働科学研究*において作成した案及び厚生科学審議会生殖補助医療部会**における検討結果を元に検討する。
- 3) 不妊治療の成果・予後等の検証方法について：不妊治療によって出生した児の予後の検証を行うための、情報の収集・管理方法や調査項目について検討する。

これらの検討を踏まえ、平成19年度から適用していく運びとされています。

検討会委員は10名、看護職としては日本看護協会の推薦により、私こと森、本学会から村本さんの2名が入りました。患者カップルと生まれてくる子どもにとって、どのような事業が望ましいのか、難しい課題ですが、代弁できるように努力したいと考えています。また、検討結果によっては、生殖補助医療における看護の位置づけが大きく変わっていくための第一歩となる可能性があります。会員の皆さまも関心を寄せて、この経過を見てほしいと思います。

すでに会議は、第1回が10月18日、第2回が11月30日に行われ、第3回は1月、最終の第4回は2月の予定です。

議事次第や会議資料、議事録はホームページ上で公開されます。

参考：厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp>

*平成17年度厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究）「生殖補助医療の安全管理及び心理的支援を含む統合的運用システムに関する研究」（主任研究者：吉村泰典）

**生殖補助医療に関する制度整備の具体化のため取りまとめた報告書

資料

「特定不妊治療費助成事業」概要

○要旨

不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、高額な医療費がかかる、配偶者間の不妊治療に要する費用の一部を助成

○対象治療法

体外受精及び顕微授精(以下「特定不妊治療」という。)

○助成の対象者

特定不妊治療以外の治療法によっては妊娠の見込みがないか、又は極めて少ないと医師に診断された法律上の婚姻をしている夫婦

○給付の内容

1年度あたり上限額10万円とし、通算5年支給

○所得制限

650万円(夫婦合算の所得ベース)

○指定医療機関

事業実施主体において医療機関を指定

○実施主体

都道府県、指定都市、中核市(全都道府県・指定都市・中核市において既に開始済み)

○補助率

1/2(負担割合:国1/2、都道府県・指定都市・中核市1/2)

○沿革

平成16年度創設 支給期間2年間として制度開始

平成17年度より「母子保健医療対策等総合支援事業」として統合補助金化

平成18年度より 支給期間2年間に延長

*下記は、今回検討する論点の1つとなっている下線部について説明された実施要綱の部分です。

平成18年度 特定不妊治療費助成事業 (母子保健医療対策等総合支援事業)実施要綱(抜粋)

5 特定不妊治療費助成事業

(1) 事業の実施に当たり、都道府県等の長(以下「都道府県知事等」という。)は、特定不妊治療を実施する医療機関として適当と認められるものを指定するものとする。

なお、医療機関の指定に当たっては、次の諸点に留意すること。

ア 特定不妊治療の実施につき、高い技術の下に十分な理解と倫理観をもって対処できる医療機関であること。

イ 日本産科婦人科学会の会告等に定める要件を満たしている医療機関であること。特に、凍結保存管理施設を有するとともに、治療の内容等についてのインフォームド・コンセントが得られる体制を整えていること。

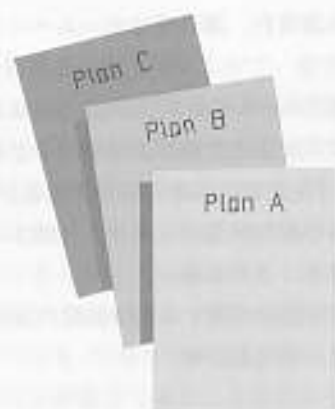
なお、会告等に定める要件については、以下のものを参考とすること。

- ・「体外受精・胚移植」に関する見解(昭和58年10月)
- ・顕微授精法の臨床実施に関する見解(平成4年1月)
- ・「多胎妊娠」に関する見解(平成8年2月)
- ・生殖補助医療の実施施設の設備要件と実施医師の要件について(平成12年4月)
- ・生殖補助医療に関する諸登録の申請にあたって留意すべき事項(平成15年12月)

ウ 治療により妊娠の確認がされた後においても、妊娠から出産まで安心して医療が受けられる体制が必要であることから、出産等の母体・胎児管理を行う医師等への情報提供ができる医療機関であること。

エ 域外であっても管内の患者を多く受け入れている医療機関を指定する等、助成を受けようとする夫婦の利便性も考慮すること。

(2) 本事業の円滑な実施を図るため、医療機関の指定その他の事務処理に当たっては、医師会等関係者と十分連絡協議の上行うものとする。





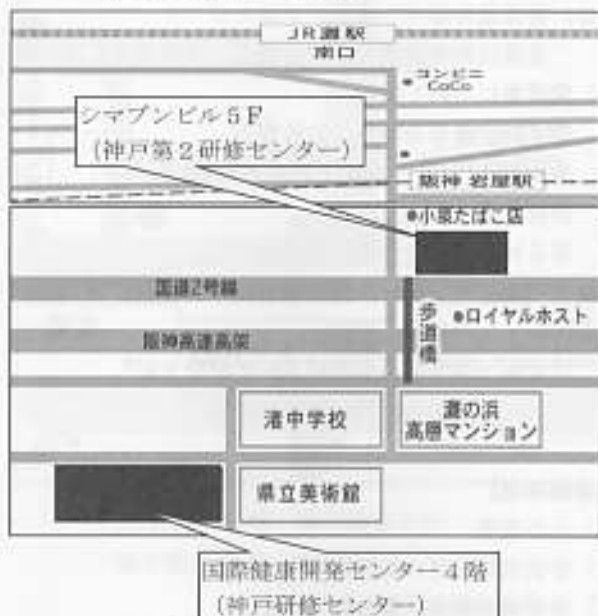
勉強会のお知らせ

関西地区勉強会

テーマ：「不妊治療で妊娠した女性の心理と背景を理解し、その後のケアを考える」

日時：平成19年1月13日(土) 14:00~16:00

場所：日本看護協会第2研修センター
(シマブンビル 5F)



<交通>

最寄駅/JR神戸線「灘駅」より徒歩5分

阪神電鉄「岩屋駅」より徒歩3分

参加費：無料

申し込み・問い合わせ先：

日本看護協会神戸研修センター教育研修部
認定教育係
不妊看護認定看護師教育課程担当 柴田 文子
〒651-0073
神戸市中央区臨浜海岸通1-5-1 IHD4F
TEL：078-230-3251 (直通) 078-230-3250 (代表)
FAX：078-230-3256
E-mail：fumiko.shibata@kobe.nurse.or.jp



九州地区勉強会

テーマ：「看護の視点で、生殖医療と多胎妊娠の問題を考えるⅡ」

日時：平成19年2月4日(日) 14:00~17:00

場所：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
研修講堂 (別館健康医学センター5階)
〒810-8539 福岡市中央区舞鶴3-5-27
TEL：092-721-0831 (代表)

ホームページ <http://hamanomachi.jp/www/>
<交通>

地下鉄…地下鉄1号線赤坂駅下車 (1番出口)
徒歩5分

西鉄バス…博多駅、天神方面から1.3.12.13.56番
系統で赤坂門下車徒歩5分

26番系統では法務局前下車徒歩3分

参加費：500円 (資料・お茶代)

申し込み・問い合わせ先：金丸 道子 (国家公務員共済
組合連合会 浜の町病院)

〒810-8539

福岡市中央区舞鶴3-5-27

TEL：092-721-0831 (内線 2341)

E-mail：mitiko-k8140011@jcom.home.ne.jp

または

日本看護協会神戸研修センター

教育研修部 認定教育係

不妊看護認定看護師教育課程担当 柴田 文子
〒651-0073

神戸市中央区臨浜海岸通1-5-1 IHD 4F

TEL：078-230-3251 (直通) 078-230-3250 (代表)

FAX：078-230-3256

E-mail：fumiko.shibata@kobe.nurse.or.jp





第2回 理事会報告



日 時：2006年11月25日(土) 16時05分～17時45分

場 所：聖路加看護大学 505

出席理事：森明、村本、遠藤、福田、長岡、清水、有森、小川、塩沢

オブザーバー：蔵元ウイメンズクリニック 久保島 (第5回学術集会の企画委員として参加)

【報告事項】

- 18年度第1回書面理事会報告：4名の入会を承認。
- 会員数と入退会報告：入会審査済み285名中、入会費済み会員 265名。会費3年滞納で退会扱い
- 各委員会報告
 - 1) 編集委員会
学会誌第4号の原稿締切を11月30日に延期し、発行は3月の予定
 - 2) 広報委員会
 - (1) ニュースレター：第13号を12月末に発行予定
まだHPのアクセス数が少ないことから、紙ベースで発行
 - (2) 学会のPR：学会でのPRと、ARTをしている施設へ入会案内送付の提案
 - 3) 教育委員会
第3回不妊看護実践セミナー 参加者数65人
 - 4) 実践開発委員会
相談メール：専用アドレス取得を検討。相談件数を増やすための方策も検討中
 - 5) 将来検討委員会
助成金の支給はこれからであるが、研究は開始

4. 特別委員会

- 1) 学会発展構想ワーキンググループ
会員の種類の拡大。会則変更案を考え、次年度の総会後の実施へ向けて検討
- 2) 看護連対応ワーキンググループ
看護技術検討委員会に所属し、本学会としての研究成果について検討
5. 第4回学術集会報告・会計報告
参加者 124名+ボランティア24名
会計決算
6. 第5回学術集会準備状況報告
タイムスケジュール、企画委員、会場費の算定の報告、テーマの提案
学会第5回学術集会専用HPを開設予定
jsfn@kuramoto.or.jp

【審議事項】

- 1) 入会審査
- 2) 学会名称変更の挨拶状
- 3) 各委員会幹事・委員について

第5回 学術集会のお知らせ

今年の第5回学術集会は、福岡で8月に開催予定です。現在着々と準備を進めています。詳細が決まり次第

ニュースレター及び学会ホームページに掲載しますので、楽しみに待っていてください。



英国Royal College of NursingのFertility Nurses Forum Conferenceのお誘い

今年も英国生殖専門看護師達のカンファレンスのご案内が来ています。一緒にロンドンへ行きませんか？

このカンファレンスは、生殖専門看護師と生殖ケアに関わる他の医療職が連携したり、それぞれの経験を共有することを目的として開催されています。

テーマ：Market Forces—Challenges for Nurses in ART

日 時：平成19年2月3日(土) 9:30～16:45

場 所：英国 ロンドン Cavendish Square

主なトピックス：Advances in genetics

Reproductive tourism

Natural killer cells

The media perspective

E-fertility; a patient's experience

Ultrasound, guided embryo transfer:
the nurses' role

プログラムの詳細や登録方法は、ホームページをご参照下さい。

<http://www.rcn.org.uk/events/pdf/Fertility%20flyer.pdf>

掲示板

その1 講演会のお知らせ

テーマ：精子・卵子・胚の提供を望むカップルへのサポート—
—カウンセラーからみたドイツの現状—

日時：平成19年1月6日(土) 13:30~16:30

講師：Dr.Petra Thorn (カウンセラー)

場所：港区立男女平等参画センター



JR 田町駅下車 東口徒歩2分

地下鉄三田線・浅草線

三田駅下車 A4出口徒歩4分

※会場には駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

参加費：無料

主催：リプロ研究会

連絡先：清水宛 kiyomi.ns@iuhw.ac.jp

国際医療福祉大学 TEL：0465-21-6651

ペトラさんはドイツの不妊カウンセラーで、特にAIDで家族になろうとするカップルへのサポートに重点をおいて不妊カウンセリングを実践されています。また国際的な不妊治療の消費者サポート組織(iCSI)のコーディネーターもされています。生まれた子どもの「出自を知る権利」が確立していないのは、ドイツも日本と同じ。そんな中でドイツでは、カウンセラーがどのような役割を担っているのかについてお話しさせていただきます。どなたでも参加いただけます。

その2 討論会のお知らせ

テーマ：第2回 こうのとりの会

—不妊に関する専門家による不妊の現実と限界をさぐり—

日時：平成19年3月4日(日) 13:00~16:00

場所：宝塚市ソリオホール

宝塚市栄町2丁目1番1号(ソリオ1・3F)

TEL：0797-81-8200 FAX：0797-81-4791



・阪急宝塚駅下車徒歩2分 ・JR宝塚駅下車徒歩3分

プログラム：

特別講演 最新の医療情報を知ろう

日本生殖医療研究協会会長 荒木 重雄先生

第一部 講演 生殖医療と遺伝相談

日本不妊カウンセリング学会認定

体外受精コーディネーター 福田 貴美子先生

最近の男性不妊について

聖路加国際病院 女性総合診療部長・

生殖医療センター所長 佐藤 孝道先生

不妊カウンセリングの実際

大阪大学泌尿器科 講師 辻村 晃先生

クリニックにおける不妊カウンセリング

桜クリニック 看護師 植村 陽子さん

第二部 討論会 参加者と専門スタッフのフリーディスカッション

コメンテーター 荒木重雄先生、佐藤孝道先生、

福田貴美子先生

野澤美江子先生(兵庫医科大学看護学部)

中村公彦先生(天の川クリニック院長)

辻原科子先生(不妊カウンセラー)

参加費：無料(先着300名)

申込方法：お集書、FAX、E-mailもしくはTELにて
下記までご連絡下さい。

(開催事務局) 徐クリニック

〒663-8006 西宮市段上町2-1-10

TEL：0798-54-8551 FAX：0798-54-8552

E-mail jart@iris.eonet.ne.jp

もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、看護職者として「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろう?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」などなど、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなりますが、将来的には会員の皆様に有意義に活用していただけるように工夫してゆきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善 (相談室開設など) にともなう相談 など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX (03-5550-2266) もしくは、E-mail (jsin@sken.ac.jp) で、お気軽にご知らせ下さい。
2. 住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡下さい。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘い下さい。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせ下さい。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用下さい。

重要 会費の納入をお願いします

会員の皆様、今年度の会費の納入はお済みですか?

「平成18年度会費」は、平成18年9月1日～平成19年8月31日までの諸活動に伴う会費です。今年度も皆様にご満足いただけるよう様々な企画を準備しています。まだお済みでない方は、納入をよろしくお願いします!

日本不妊看護学会 (Japanese Society of Infertility Nursing : JSIN) は、
日本生殖看護学会 (Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN) へと名称が変更になりました。

編集後記

街はクリスマスのイルミネーションの華やかさから、お正月の準備へとせわしなく過ぎていく、まさに“師走”を皆様はどのように過ごされていますか?

今月号から広報委員をバトンタッチし、ニュースレターの新しいも新たに神戸 (数寄川と言ったら明石で～す) の街から街の街へホットな情報、役に立つお知らせを乗せて発信します。皆様楽しみにしていただけのニュースレターを目指して頑張りますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

(広報委員：野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成知子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2266

E-mail jsin@sken.ac.jp (当面、このアドレスを使用)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>